

●暮しのアクセサリー／⑤

アクセサリーの手入れ 矢野有尚

夏です！

アクセサリーの楽しい季節です。アクセサリーのもつ使命はその人その人の個性を憎いばかりに表現してくれる小道具です。その小道具はいつもさわやかであり輝くばかりの光沢を持ち、すがすがしくありたいものです。暑さに向うと汗はこりによって光沢もうすらぎ、本来のアクセサリーとしての意味をも失いがちになります。そこでアクセサリーの手入れについておしゃべりを進めてゆきたいと思います。非常に簡単なことですからこれだけはしていただきたいものです。

その ①

金属、ガラスを問わず、外出する前には必ず良く乾いた柔らかな油気の無い布で乾拭きをし、つやの出るまで拭き上げます。使用後は少し水分を含んだ生乾き程度の布で汗に含まれている塩分その他、手油をよく拭き取ります。布が多少水気を含んでいますので簡単に取ることが出来ます。後は使用する前と同じく乾いた布で拭き上げます。この場合注意しなければならない点はタオルのようなパイルした布を使用すると細い部分や鎖に引掛り、

手入れが非常にしにくいので出来れば使いたしたネルのような布が最適と思われます。不精をして使用後の生乾きの布を使わずにカラダだけ行った場合、本来の光沢が出ませんし、鎖の細い部分に塩分その他がのこり、拭かないよりはましにしても腐蝕を早める原因になります。

その ②

金、白金の細いネックレスの手入れの仕方については前に述べた方法はもとより毎日のように使用する場合は鎖と鎖の間にほこりがかなりたまり黒ずんで来ますので一週に一度位は中性洗剤をとかしたぬるま湯の中で暫く浸して置き柔らかいブラシ（歯ブラシでもよい）で黒ずんだ部分を取り除き、よく水洗いをし乾いた布で水分の無くなるまで拭いて下さい。そうすることによっていつでも感じよくきれいなものを身に飾ることが出来ます。よく手入れのゆきとどいたアクセサリーで、今年の夏もシャレ抜こうではありませんか。

今月のアクセサリーとして夏らしいブレーションなものデザインしてみました。

（ガラス工芸・くらしのデザイナー）

第三の美容



EYEGASSES CRATE THE THIRD BEAUTY

ハイファッション のめがね

神戸眼鏡院

元町 3 ・ 電 ③ 3112-3 ・ ③ 1443
③ 0551 (貿易部)

〈神戸クーポン歓迎〉

オメガシーマスター



防水時計は

美田 時計店

MOTOMACHI-3
TEL (3) 1798

とやるようになってアメリカカンボールを使い出したんですよ。

須古 そういう創生期だと思うんですが、昔話に聞きましたか、グローブもなんにもなしで打球を素手で受けてたといいますね。ほとんどの打球もワンバウンドだったといわれてますね。

西尾 私が野球をやり初めた頃はもうダイレクトでした。グローブを使い出したのは明治40年頃ですね。それまでは素手だったんで手のひらの格好が変ってしまってた。野球やってるとね。それに服装もワラジばきにキャハン、ユニフォームも筒袖のスタイルだね。

司会 その頃野球の強かったところはどこですか。

西尾 東京では一高ですね。これはもう強かった。関西では三高でした。その一高なんです、近代野球を日本にもたらしたのが一高なんです。というのは、早稲田に安倍という先生がおって、この人が外人との試合を盛んに奨励しててね、当時の最強チームである一高に勝ったらアメリカへ連れて行くこと云々だったんです。それが明治三十五年に早稲田が一高に勝ったんでアメリカへ行った。アメリカのスタンフォード大学とやっただけです。ところが向うの野球の服装がこちらと全然違う。これはいかにというので在留邦人に相談してあわててユニホームを整えたといえます。試合の運び方とていうか作戦もまるっきり違う。そこでグローブやユニフォーム、スパイクなんかを持ち帰って山川という店で作らせたんだ。その時の監督さんが日本に帰って書いた本が『最新野球術』という本です。こ

れで日本の野球もすっかり変わったんですね。野球というものがこの本によってだんだん普及され、野球用具も整っていった。

司会 西尾さんが野球をやられたのはいつ頃なんですか。

西尾 中学時代です。早稲田中学が33年ですね。私が堂島中学今の北野中学、北野高校です。

横浜の外人に初めて勝った人に青井誠男という人がいます。この人は専門が造船だったんで大阪の海軍局に勤めていたんです。その頃の海軍局というのがやはり堂島にありましてね。行き帰りに中学の野球の練習をいつも見に来てた。後にその人が青井さんだと判ってコーチをしてもうこうになったんです。それから本格的な野球になったんです。その青井さんは神戸にもコーチに来てましたよ。

来田 神戸一中のコーチもしてたそうですね。もともと私が野球をやりましたのは大正4年からですけど……

須古 昔の野球は荒らかったですよ。小学校の時分から硬いボールを使ってた。今の兵庫県が中学に対してトップボールの使用を禁止してるでしょう。大阪や京都は使ってるんですが……。これが今の兵庫県の野球を弱くしてる原因だと思ふんですよ。

西尾 明治の終り頃でしたかね。野球をやると肩がつぶれるかという野球賛否論が激しく行われました。朝日新聞なんか不具者を作る以外のなにものでもないというて野球には大反対だったんです。野球撲滅論なんてのも出てた。

押川春浪というのが、これは野球賛成論者の急尖峰で朝日新聞と盛んに渡り合ったもんです。

甲子園はマンモス・スタジアムで誕生した地名ですよ。

肩身のせまかった運動部記者

司会 朝日新聞が高校野球に力を入れたのはいつ頃からなんですか。

西尾 大正の初め頃だったでしょう。確か大正四年に第一回の中等野球が初めてありますから。

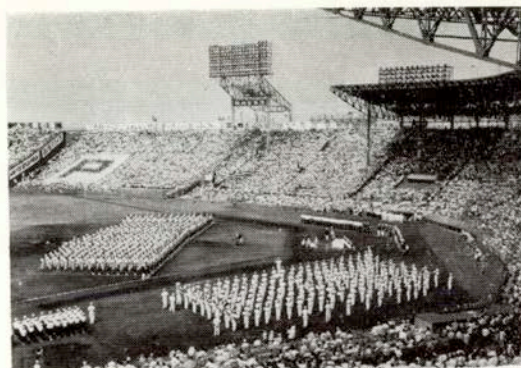
それでも私が毎日新聞に入社した明治四十五年頃には、新聞社の方も野球に認識を持ち出したようですね。だいたい社内に野球を知ってる人が誰れもいなかったんだ。北野中学が天王寺かどこかややって勝ったのに負けたと書いてしまってた問題になった。それでもって編集を強化しなけりやいかなんということになってね。その頃は支局から電話で原稿を送っても四球と死球の区別が全然つかない。陸上にしたって百米を十五秒で走ろうが十二秒で走ろうが我関せずだったんだからねえ。(一同爆笑)

須古 しかし昔の野球記事は名文でした。今読んでもなかなか面白いですよ。

来田 そうですね。まるで平家物語を読んでいるみたいです。(笑)

西尾 いやあそりやあねえ、その頃野球記事を書くのは若い連中だけなんだ。年寄りには野球なんか全然判らない。若僧が手本もなしに書く記事だからくだらんことをずい分書いてましたよ。

坪田 良心的に書いてましたよ。必要はないと思うけど試合経過な



—朝日新聞撮影—

んかもていねいに書いてたもんです。私なんか中等野球の時は葉さんという若い人と一緒にやらされたんですが、記事を書く合間に弁当は配らなけりゃならん。試合経過後は書かねばならんで、その頃はよう働いたもんですよ。(一同笑)

須古 そうすると坪田さんなんかスポーツライターの草分けですかね。もうその頃は運動部があったんでしょう。

坪田 ライターの草分けは西尾さんですよ。私の時にはもう運動部がありましたからね。もつとも、その頃の運動部は今みたいに華手じゃあなくて、編集の片すみで小さくなっていましたかね。(笑)

西尾 私が入社した頃に野球が盛んになりだして世間の関心を集めるようになりましてね。東京にいたのが大阪にやらされて中学の野

(写真上 第44回全国高校野球開会式優勝旗返還・甲子園球場で)
(写真下 第45回県大会伊丹・御影工、戦・神戸市民球場で)

球なんか取材兼奨励して回ったんです。中等野球もあれは初めは今の運動具屋の美津濃ね、あそこが手をつけたんです。大阪でね、美津濃がシャツを売るために練兵場に中学校を集めて試合をやらせてたんだ。それを朝日新聞が手をつけた。丁度各社とも運動に手をつけ始めた頃で、新しい読者を運動で獲得しようとしてね。毎日新聞は他の運動には手をつけてたけど丁度野球だけが残ってたんで、それに朝日が目をつけたんでしょね。朝日はその頃神戸支局に田村木国という俳句をやる人がいて、この人が運動記事をやってたもんで、早速大阪へ呼ばれましたね。

須古 今から考えると隔世の観ですね。今じゃスポーツ記事ばかり書いて結構商売になるイメージも喰ってるんだから。(一同爆笑)

司会 その頃はもうグラランドが出来てたんですか。

来田 グラランドなんかなかったですね。グラランドがなくても結構野球が出来たですよ。神戸の市内といっても、あっちこっちに広い空地がありましたから練習や試合には事欠かなかったですよ。

西尾 大会をやるのにはお客さんも入る。こたしグラランドみたいなものが必要だったんですね。それで競馬場でよくやりましたよ。ところが馬というのは敏感なやつでね。野球をやったら馬が走らない。それで競馬組合の方から苦情がออกมาしてね。第一回の中等野球大会は豊中でしたしね。

来田 ええそうです。第一回と二回が豊中、三回から九回までが鳴尾、それからあとが甲子園です。

坪田 甲子園は阪神の野田さんが作られたんでしょう。あの球場は野田さんの功績だといわれていますね。

司会 甲子園が出来たのは大正14年ですか。

西尾 あれは13年の春だったんですよ。前の年が空梅雨で非常に工事が早く進んで、予定よりも早かったんです。

須古 キノエネの年に出来たんですね。それで甲子園と名がついたそれまであの辺は鳴尾村といっていましたね。

朝日新聞神戸支局にいた頃
中等野球ともなれば、
ねちはちまきで走り廻ったものだ

—坪田—

司会 甲子園の話が出たところで高校野球の話に移りますが、昔の

兵庫県は強かったそうですね。

来田 地元というか野球は盛んで小学校の頃からやって試合経験を積んでましたからね。第一回の時は私は一年生だったんです。二中が古したのは第五回です。

須古 兵庫県で初めて優勝したのがその時の二中だったですね。

来田 その頃の二中は実は弱かったんですよ。強かったのが一中や関学でした。ところが一中と関学が予選でぶつかって、いつの間にか二中が出てしまった。二中が出場し優勝したのは後にも先にもこれっきりなんですよ。(一同爆笑)

司会 来田さんは中等野球で最初の優勝旗を手にした方なんです。優勝の気分はどうですか(笑)

来田 優勝した瞬間は別に感じませんね。やはり後ですよ。優勝旗を手にしたときは、実感がピンとこないが、嬉しいという胸がはずむのは宿舎に帰ってからです。涙が一度出るとなかなか止まらない。理由なく泣けてくるんですよ。司会 来田さんの頃はもうどうでしたか
来田 私は優勝の経験はないんですよ。神戸では神港が強かったですね。神港が予選で負けてくれると明石に出場のチャンスが来るようなもんでしてね。それでも、小学校、中学校、大学とずっとその時その時の野球全盛時代に過してきましてからずい分頑張りましたよ。県内が目撃しやなく、愛知とか四国が常に頭にありましたね。中京なんかそうなんです。それで甲子園に出た時の中京と例の二十五回戦をやりましてね。
須古 あれは球史に残る試合ですね。

坪田 長い試合でしたよ。これも当時の話題だった。甲子園から姫路へ帰ってもまだやってたと言いますよ。(笑) 初めは試合が二時からだったんですが前日に予定が変わって十二時からになった。それで五時間かかったんですが、選手は昼の食事をしたた消化が悪いというので十時頃におかゆを喰べただけなんです。二時頃には試合が終わるからという心算だったんです。ところが終わらない。選手は腹がへつてくるんですね。打てないもんだから三人出たらチェンジになるのが判ってしまふ。それでベンチへ帰らずに三塁の横に座りこんでしまっていました。

(爆笑)

来田 その頃はピッチャーがいいからなかなか点が取れない。延長戦なんかザラにありましたよ。二十四回目にホームから人が来て二十五回やって点が入らなければ止めてと審判に話しててのが聞えてくる。いやな気持ちだったんですね。しかしあの時の中京の選手なんか一人一人みてもいい選手ばかりで、これが中等野球かと思うくらいでした。

司会 応援もすごかったでしょうね。終わったあとは如何でした。

来田 地元の声援が大変なものだったですね。私達は終わったらサツと引き上げましたけど、球場の外はもう人垣で一杯、それでも大して感激してなかったんですが来田さんと同じように、帰ってから泣きかけたもう涙が止まらないんです。(一同爆笑) 明石へ帰りますとね。駅に縄を張って、乗る人も降りる人も釘づけなんです。駅なんか二時間くらい閉鎖してし

まっていたかね。駅長が自から駅を閉めてしまつて駅前には千人ぐらいの人が集ってました。私も三回ぐらい挨拶させられましたけど。

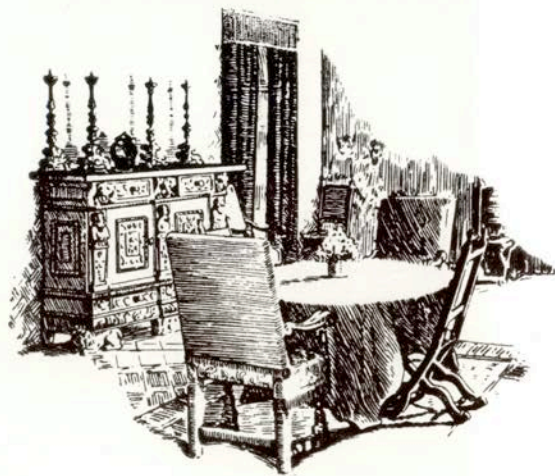
坪田 その時の投手が中京は吉沢明石は中田でした。確か、明石に楠本という名投手がいたんだが、これが脚気で出られなかった。しかし楠本君の投球はすごかった。ウナリをあげて球が飛んでくるんだ。打つとバットが後ろへ行く。まさに剛速球なんだ。中田君は反対に技巧派でしたかね。

来田 ええ、楠本君の球は早かったですね。それだけに彼はワンマンで練習の時も自分の球が打たれると気嫌が悪い。絶対打たれないという自信をもっていましたよ。今のプロ野球でもあれだけの剛速球を投げる投手はいないと思います。この楠本君が卒業してからは、明石中学も中田君も戦死してしまつたんです。が惜しい人でした。

来田 地方大会を終始一県だけでやっていたのは兵庫だけなんです。それだけ野球人口も多いし、強豪ぞろいでした。第9回大会まで兵庫が優勝するチャンスがなかったのは第2回の慶応と第7回の和歌山中学がズバ抜けて強かったくらいでしょう。もっとも今はもう駄目ですがね。

坪田 私は大正12・13年頃に、こちらの支局にいらしてね。その頃は地方予選も今みたいに花やかなものじゃなくて貧弱なものでした。村上彦次なんかはその頃熱心にやっていた。私なんか、かけ出し時代だった。で会場か、世話や記事を書くのに追われ通して、

家具・室内裝飾・工芸品



永田良介商店

大丸前 TEL { ③ 5 5 2 0
③ 1 2 9 0

呉邦陳設

みよーや

神戸 大丸 前

電話神戸(3)三三八八〜九番

大阪店 阪神百貨店三階

電話大阪(2)五五四八番

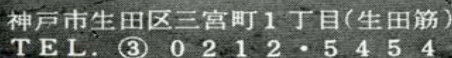
姫路店 やまとやしき百貨店三階

電話姫路(2)一二二一番

衣裳部 三宮町三丁目柳筋

電話 ③ 五一六五番

TEL(3)0381



コトブキ
コトブキ
コトブキ
コトブキ

大会期間中はずっと甲子園に併結
でした。会場設営係を兼務でね。
(笑)そのせいか野球を見る余裕
なんかなくて、もう野球が終った
らホットしたんです。いまでも、
野球を見る気がしないんですよ。
夏の高校野球は余り見に行かない
ですね。

司会 その頃はもうラジオ放送は
やってたんですか。

峯本 ラジオが始ったのが大正の
終りか昭和の初めでしょう。だか
ら途中からラジオの実況が始った
んです。

須古 ええ。電話で中継放送して
ましたね。今みたいにナム中継じ
やなくて球場から放送局までを電
話で実況を流し、それを放送局で
アナウンサーが口うつしに放送し
てたんです。

西尾 その頃のラジオは今のテレ
ビと違ってそう普及してませんで
したね。あれは明石、中京の頃で
したか、例の得点をハリ出すのね
あれが非常に盛んでした。得点表
の前にたくさん集ってましたよ。

司会 戦争で一時中断してたんで
すが戦後はもう二十一年から始っ
てますね。坪田さんなんかその頃
もお世話されてたと思うんですけ
ど、よくあの終戦の混乱期にやれ
ましたですね。

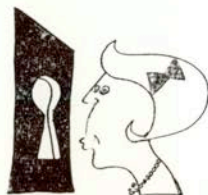
坪田 いや、私は終戦の時は名古屋
屋に変わってましてね。ところが終
戦直後だったと思うんですが、
芥田君が名古屋へやってきまし
てね。中等野球を復活したいとい
う話が出たんです。しかしあの混
乱期でしょう。第一スパイクやグ
ローブ、ユニフォームなんか全然
ない時代です。それに野球部はあ
っても選手のいない学校が多くて

ね。それを芥田君なんか全国を歩
いて出場して呉れないかと頼んで
回ったんです。それならみな心よ
く出ましょうという返事なんです
野球がやりたかったんですね。こ
ちらとしては出てもらえらるならと
いうんで準備を始めたんですが、
一番困ったのは食糧ですね。当時
の食糧難で選手に喰べさせるもの
がない。担当者はずい分苦労した
と思います。用具も恐らく満足な
ものはなかったんじゃないですか
確か二十一年のときはズックをは
いてやったと思います。それでも
地方大会に七百校集ったんですが
今から考えるとよく集ったと感心
します。経費の面でも出てこれな
い学校が多かったんですから……
峯本 実際食糧には困りましたね
都市対抗でも、まず食糧を調達し
て、これが確保されると初めて出
場といった具合だったんですから
むかしは野球の虫が沢山いました
ほしい地元の盛りあがり！

司会 そういった苦労を経て戦后
十八年の現在、昔以上に高校野球
も盛んになり、野球そのものも国
民的なスポーツになったんですね
ところで、そういった昔の中等野
球を通じて印象に残っている人に
はどんな方がありますか。

峯本 選手にも印象深い人はいま
すけど、昔は個人プレーというの
が少かったので、印象に残るとい
うか懐かしい人は選手以外の人に多
いですね。例えば今神戸銀行のグ
ランドに選ばれる長さん。この人なん
か非常に選手の好きな人で、特に
明石中学なんかひいきにしてくれ
ましてね。私もよく可愛がって
もらいました。

ピンク・コーナー



スクリーンにはじめて「海水浴
美人」が登場したのは一九一五年
ごろだといわれます。そのころの
水着は今日のビキニ・スタイルか
ら見れば、身体の露出部分が少な
くて、さぞ殿方ガツカリされたこ
とと思われそうですが、実はさに
あらず、これでもけっこう目の保
養にはなつたといえます。海水浴
のはじめは特別に水着として、の
デザインがあつたわけではなく、
当然上着をぬいで下着だけで海に
はいるといふ形になりました。ふ
だんは寝室でしか見せられな
い下着姿に白昼公然とお目にか
れるわけですから、ビラビラのた
くさんついた海水着は、なおさら
たに違いありません。

ところが、下着や寝巻きに近い
海水浴スタイルから、今日の水着
スタイルになったのは映画のおか
げだといわれます。その結晶は現
代のビキニ・スタイルだそうで、
映画の魔術師はこういいます。
「ここに二つの布きれがございま
す。これがパンティとブラジャー
になれば、もつぱら屋内用でめつ
たに人前には出せません。ところが
がたつた二つの布きれがビキニ・
スタイルともなれば、太陽にふさ
わしい屋外用のバカンス・ブルック
となる」パチパチパチ……拍手の
波、殿方たちの拍手の波。(T)

坪田 いやあ、あの人は明石中学だけじゃないんですよ。どこの選手でも好きだったよ（一同爆笑）
あの人はグラランドの神様みたいな人で、グラランドについては実によく知ってましたね。日本のグラランドのベテランです。

峯本 そうですね。一寸見ただけでグラランドのならし方が判ってました。ベースについても非常にやかましかったんです。それから審判では二出川さん。この人なんかずい分こわかった人です。だいたい昔の審判は選手に厳しかったですね。フィールドを歩いてたらたちまち怒鳴られてね。

西尾 神戸の居留地にチイサイというボール拾いがいたでしょう。外人なんかには有名だった……。

来田 あれは日本人でちっともチイサク（ない）。六尺ぐらいありましたよ。（一同笑）

坪田 今というグラランドボーイですね。子供の時分からいたんで外人にチイサイ、チイサイと云われてたんだけど、神戸の名物男でしたね。

西尾 野球もラグビーもサッカーもなんでも知ってた。一種の運動狂だなあ、今はもうそんな人はいないね。

須古 昔はそういう人が多かったですよ。損得を離れてやってましたからね。やっぱり昔はのんびりしてたんでしょうなあ。

司会 いろいろ話は尽きないようですが、最後に高校野球のシーズンでもありますので、神戸地域に対する希望といったものを一つお願いします。

坪田 今は盛り上りが少いように思いますね。昔は全市を挙げて応援

に行ったもんです。今は学校単位でしょう。ローカルのな域を出ない。もつと盛り上って欲しいと思いますね。

峯本 私は個人ブレイも結構だけど、もつとチームとしてブレイに徹して欲しいと思いますね。表面的なブレイは今の選手は非常にきれいなんです。が一つ間違うと大きなエラーになってしまふ。格好だけのプロの真似は止めて真剣に勝負して欲しいですね。

坪田 そうですね。昔は新聞でも個人の記事なんか滅多に取らなかったよ。

峯本 それからもつと目標を大きくした方がいいんじゃないですか。昔は全国制覇を狙って、まず県下の出場校となることを目指していた。今は県下一校出てるからいいじゃないかといった気分があるように思います。

来田 確かに今の高校野球は兵庫県なら兵庫県のことだけしか考えないですよ。それ相当のトレーニングはやってても、気分的に昔とずい分違いますね。

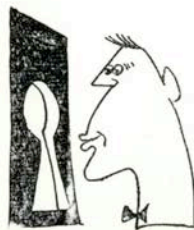
坪田 今の時代では郷土に対する愛着が少なくてすからね。

西尾 しかし神戸には地盤があり伝統があるんだから、もう少しがん張れば又盛り上ってくるんじゃないですか。

司会 ではこの辺で。どうも長い時間有難うございました。

（オリエンタルホテルで）

ピンク・コーナー



このあいだ男性たちの間にまじった「紅一点」の女性が見事一着になりました。しかし新聞は女性宇宙飛行士ほども騒ぎませんでした。競馬の話だったからです。ところで、踊り子を描いて有名なダガは、また馬を愛した画家でもありました。作品の数からいえば、バレエの踊り子よりも競馬場の方が多かったといわれるくらいです。ダガにいわせれば、馬と踊り子の間には一脈相通じるものがあったように、血統の正しい名馬の胴がしなやかに、足がすんなりとびたツヤツヤしが汗に光りながら疾走するさまは、ツマ先に全身をささえて躍動する踊り子たちの柔軟さにそっくりだというわけです。芸術家には同じような感覚があるとみえて、戦前の映画「春の調べ」にも、年上の夫との性生活にあきたりぬ主人公が、全裸になつて馬といっしょに湖のほとりをかけまわるといふシーンがありました。

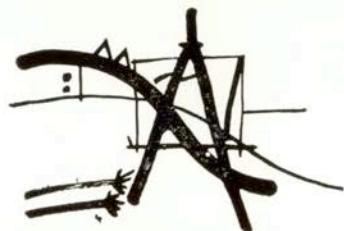
ところが男性にとって困るのは女性の乗馬好きということ。英国のレディーは昔から乗馬好きで有名ですが、くたくたに疲れて帰ってきた彼女は、今さらなにをする元氣もなく、ベッドにはいると棒のように寝てしまします。たしなみのある紳士は口ではいいませんが、腹の中では「私はなにに乗ったらいいんだい」（T）



三宮・センター街 電 3 1750

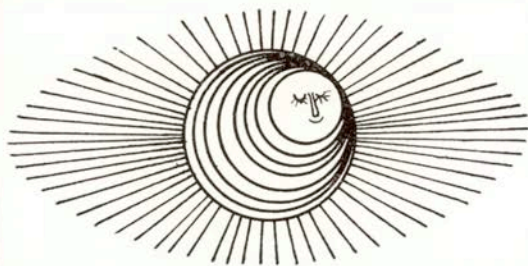
芦屋店・サンドウィッチパーラー
そごう店・姫路店・大阪店

額縁絵画・洋画材料
室内工芸品



末積製額

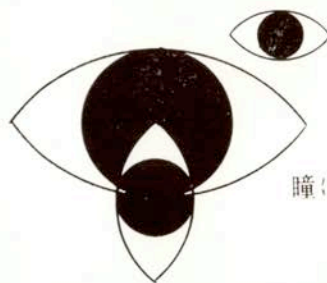
三宮・大丸北
トア・ロード
③1309・6234



暑中御見舞

太陽製版KK

神戸市兵庫区湊町一丁目高架3号 / TEL 製版部 ⑤0558・0586
写植部 ⑥4416



瞳に美しさを保つ
スポーツに
美容に
現代の科学が生んだ
コンタクトレンズ

国際コンタクトレンズ研究所

神戸市葵合区御幸通八丁目九ノ一(三宮駅前)
神戸国際会館内 TEL(22)8161・8361

甲陽・神港の

全盛時代

青木重雄

兵庫県

球児の全盛時代

高瀬二郎

高校野球特集②

400字

アンケート

全国高校

野球の

思い出



大正十二年に劇的な逆転勝ちの連続で甲陽中学が全国優勝してから、今まで地元でさえあまり知られていなかった甲陽の名は、たちまち全国に鳴り響いた。かく申す私自身も、この優勝で甲陽の名に引かれて翌々年入学した一人だった。十三年甲子園球場が完成して中学野球はいよいよ盛んとなったが、おかげで私たちは学校近くの甲子園で甲陽が試合をするたびに応援に駆り出されたものだ。今でもリリーダーの振る紫色の応援旗に統卒されて必死に歌いわめいたことを思い出す。

・当時は兵庫県下では神港商業が強く、甲陽との対戦は龍虎の戦いで、和製ベールブルース山下はじめ町田、小柴の名バッテリーを持った神港をやっつけようと、応援に必死になったものだった。松平投手が甲陽に彗星のように現われて神港を見事打ち破った時の喜びは一生忘れられない。

だが、甲子園球場の出来た当初はまだ附近は草深い河原だった。昼休みには甲陽の生徒は校川に集ってきて弁当を開き、野球試合などに熱中した。遊びに夢中になって、思わず授業のベルを忘れたり河原に空弁当を置いて帰って、母親に叱られたことなど懐しい思い出はつきない。(神戸新聞論説委員・調査部長)

第一神港は、夏の大会よりも、むしろ、春の選抜に素晴らしい戦績を残している。

選抜では、3年連続優勝の快記録を樹立しているが、夏の大会での経験はあまりない、というのは選抜の優勝校は夏季休暇に渡米の招待があったため、夏の大会とブツかつてしまうのだ。確かに2回渡米している筈だ。

「兵庫県代表が優勝校になる」と言われる程、各校とも強かったのである。事実、その頃は、確かに兵庫勢の野球技術は他府県を圧倒していた。

それは、第一に甲子園で、試合の経験を多くもっていたことが挙げられると思う。その頃、早稲田慶応、明治の卒業選手達が、各校のコーチをやっている、このコーチを受けている学校のあいだで「ダイヤモンド・コーチ・リーグ戦」というのがあった。これで野球のインサイド・ワークを徹底的に仕込まれたので、練習量は豊富だし細かいプレイが出来たのである。母校を代表して、郷土のために堂々と戦ったものだ、そう言った精神的な意気込みというのは、全く物凄いものだった。プレイヤー自身が白球に意気込をせて頑張ったものだ。高校野球の面目はやはり、真摯な、精神力で戦う意気込みのたのもしさではないかと思うがどうだろうか。

(川崎興産第一営業部長)

ジnkス

三宅輝夫

縁起かつぎは勝負師につきものである。高校野球の場合も例外でなくユーモラスなうら話がある。一昨々年の県代表明石ナインはゲームごとにバナナを食って予選を勝ち抜いた。いよいよ甲子園の桧舞台、守りについて静まり返ったベンチをのぞいてみると、すでに使命を果たしたバナナの残がいが片すみに山積しているのを発見してほほえましく、またたのもしく思ったことがある。

一昨年の報徳の場合は試合の前におなかの大きい婦人を見れば必ず勝ったというから一風変わっていた。球場への道すがら今日もその姿を見出さんと全員バスの窓から道行く人々を分析するのに鼻命だったというから並大抵ではない。「どうしても出くわさなかった時は、わざわざ友人の家へ遠廻りして、お目出たの近い奥さんの姿をひと目見せてもらってグラウンドへかけつけた日もありました」と監督さんは苦笑していた。大会が近づいてくるとグラウンドの熱戦とは別に、そのうら話を聞く楽しみが毎年私に訪れてくる。

(洋画家)

愛すべき

甲子園グラウンド

米田長二

私は野球がメシより好き。若い頃甲子園が近かったせいもある。若くして商売そっちのけで通いつめ、ついに昭和二年、炭屋稼業から甲子園のグラウンドキーパーになった。

その頃の中等野球のファン氣質はすさまじく、夏の大会ともなれば、宵から徹夜で7時の開門を行列を作って待っていた。又扉を飛びこえ外野席に浸入してくるファンの群を少ない人員で整備警戒するのに汗だくだった。本部にデントがあるわけでもなし、カンカン照りの青空の下で駆けずり回り、睡眠3時間の日が8日間続くシンドサは、今の大会から考えると夢のようである。

甲子園名物といわれた「甲子園の火事」は8日間の試合中何回も起った。今のアルプススタンドと外野は堤防のようになっていて鉄道のマクラ木を使ってスタンドにしていたので、座席の下が空いていた訳である。そのため一般の客が、新聞紙をスタンドの下に放り込む、その上にマッチのつけかけが投げ込まれると「甲子園の火事」が起り、試合中にわれわれはホースを持って「それっ」と駆けつけたものだ。

甲子園のグラウンドは可愛い。甲子園のおかげでいまも好きな野球のグラウンドキーパーをやっている。

(神戸銀行グラウンド)

入場式のかげに

前田光三

またしても夏の高校野球が展開される。各地区から勝ちぬいてきた球児たちは、憧れの甲子園の陣頭に、顔をこわばらせ、肩をいからして入場式にのぞんでいる。この入場式のかげに全国高校球児たちは、苦しい思いをさせていることを忘れてはならない。十三年前――私は育英の教員をしていた。そのとき、激戦また激戦の末、優勝戦にこぎつけ、植村、本屋敷らの芦屋高校と対峙した。スコアーは忘れたが、敗れた。そのときの光景が、私の若き日の思い出としてあまりにも強烈に残っている。敗れたわが愛する球児たちは、ただ無念の涙にぐれながら芦屋ナインに拍手を送っていたときだ。ある生徒が私にいった。「先生、ボクはこの無念さは一生忘れません。どんなことがあっても――」その生徒は現在どうしているか知らない。しかし、敗れた無念さを社会に飛び出ても「勝たねばならぬ」というファイターになっていることと信じている。高校野球には、プロ野球の優れた技術はないかも知れない。しかしそれを上回る精神力の激しさが生命力となっているのだ。私はいいたい「甲子園に入場できなかったけど、それ以上のものが、きつとあなたたちの上にあるよ」――と。

(日刊スポーツ文化部長)



Tea Room
ROSIER

モーニング・サービス
9～11時までエッグ・
サービスをいたします

喫茶・ロジエ
神戸大丸上柳筋山側階上
TEL. 39-2688
洋酒の店・ロンドン
農薬会館浜下る角③3297



おすし 東
てんぷら
榮 彌

三宮町二・朝日会館前
TEL ③ 五七七二
(第一第三日曜お休み)



世界の洋酒の店
A B U ハ チ

元町二丁目
TEL ③ 2798



Itellie
Ristorante

IKUTA-SHINMACHI
TEL. ③ 0376

わんぱく江戸日記
アスファルト・ジャングル
伊達俊太郎



この前、新聞の片すみに「有楽町駅に花壇できる」という記事がのった。一日百何十万という人が乗りおりする銀座の出入口に、わずかにたまり一層ほどの花壇ができたという話だ。

これが神戸だったら、とうてい記事なんかになるしろものではない。短い記事だったが、花壇に使う「土」が

いてしまった。

先日もこんなことがあった。

台風0号とかがやってきて、みんなズブぬれになって会社に出てきたが、A君のズボンには、はね上げたドロがこびりついていた。自慢のホンコンシャツにまで飛び散った黒点をみて、みんな「フーン、たしかにこれは真正銘のドロだねえ」と感心してしまったのである。

そのあと、ぼくらは、A君を英雄のように円陣の中央に囲みながら、むかしみた「土」の話を咲かせた。固まった路地の土を小さなスコップで掘りおこし、片足が入るほどの落とし穴をつくって喜んだ幼い日。空襲の夜もぐりこんだ防空壕の土が背にじめじめとつめたかったこと。語るうちに、ぼくらは、「ドロ」なんていかにも実感のこもったことばを、もう久しいあいだ使っていないことに気づいたのだった。

朝おきて、たたみの上で靴下をはき、玄関の石だたみで靴をはく。靴は電車のコンクリートをひた走り、電車の中で人の靴を踏み、ビルの中の大理石の床をおそるおそる歩き、夜、バーの止り木に安息する。考えてみれば、一同の足が、外気にふれる機会は皆無なのであった。

話のおわりに、A君がいった「いまの子どもは、ハダシになってそおとしのび寄る、あのセミ取りのダイゴ味なんてのを知らねえんだろなあ」それを受けて理屈屋のMさんは「ぼくらは養鶏場のメンドリみたいなもんですよ。たまごさえ生めばいいってわけで、針金づくりのカゴの中に閉じこめられてんです」

ないので、小田原近在に住む駅員が、一か月かかって米一俵ほど「土」を運んできたとの説明が、なんとも印象的だった。

「東京には空がない」

そういったのは高村光太郎が描いた智恵子の思いだった。しかし「土」がないとは――。いまさらながら、驚

その夜、飲み屋がえりのA君とぼくは、例の花壇を見物に深夜のブラットホームに行ってみた。小さな花壇にパンジーの花がちらほら。電車が入るたびに、あわれな花はおびえたようにふるえていた。そして、花びらが影をおとしている東京の「土」は、ほこりにまみれ、灰のように白かった。

神戸うまいもん巡礼

No. 12

赤尾兜子

西洋料理の巻

今月は牛肉を材にした料理の本命、ビーフステーキにもどってみよう。

ビーフステーキという言葉は、フランス語の *Beefsteak* (ビフテック) をなまっただが、もともとはきつすいの英国料理である。

なんといっても、ステーキは材料の牛肉がかんじん。それが味の決め手になる。そこで和牛からとった神戸肉の登場とあいなるわけだ。神戸肉の美味はいまさらいう必要もなからうが、神戸にいい肉が集まるのは、きのうきようにはじまったことでなく、神戸開港とともに港に入ってきた外国船へ炭や水を届けるついでに、異人さんの要望で肉をとどけ、やがて日本人の間にも食肉が普及し明治八年ごろには、市民が東京よりもずっと上回って消費していた記録もあり、それだけ消費すれば、良質の肉が集結し、資本力のある問屋ができ、よけいにいい肉が集る。こうした歴史がものをいっているのである。

ところで、そのステーキを看板にする店は、数多いがまず二店をとりあげる。

その一店はグリル「みその」(生田区下山手通一、新世紀前東角)である。ここは鉄板焼きスタイルで、サーロイン、つまり上質のロース肉を使う。鹿(か)の子模様の赤い肉のあいだにこまかい脂肪が網目のように散っている一人前三〇〇グラムの肉に塩、コショウとニンニクをかけて、焼けた鉄板の上で、じゅつと焼き、鉄兜(かぶと)のような円形カバーをかぶせて、むし焼き、

裏を返して、サイの目に切って、客の前へくばってくれる。それだけの料理法だが、ハシでつまんで食べると、美味とは、こうした味かという感じがする。目の前で焼きあがるので、冷めるヒマがなく、それも美味たるひとつの理由であろう。円形カバーをかぶせるのは、肉を下から焼くと血(水分)が上へ逃げるので、それをむす形にして、味をしめようというわけ。英国料理の基本は焼肉からしたたる脂だと昔の美食家はいつているが、そのかんじんの脂をうまく肉へしみこませていることになるうか。

戦後、まだあたりが焼野が原だったころ、この主人シロウトからお好み焼をはじめ、たまたまやってきた駐留軍がステーキをやけといいだし、それがもとで、きょうの声名を博すにいたったのは、驚きのほかないが、それは一徹な執心にもよると思うのだ。大阪、東京にまで店を出し、ますますPRはのびている。その裏で、美味さがしに随分苦心しているらしいが、美味の点では、いまや神戸を越境して名がある。一人前一二〇〇円、なかなか高級価だが、肉を精選、外人客も多く、需要がさかんだから、値上りしても、さがりそうにない。だからこの美味、複数で食べる時は、ひとりで一人前をやらずに鶏焼き(三〇〇―四〇〇円)などほかのメニューをとって、ミックスしてつまみぐいにするというだろう。

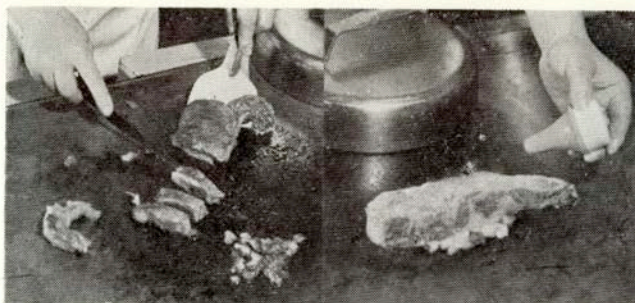
あと一店は店名にステーキを冠する「コウベステーキ」(阪急三宮駅東口山側)である。ビルの地下だが、十二年前にできた。当時、関西のレストランで、地下を

場所にしたところはなく、そのジnkスを思い切って破ってはじめてという先駆的な開店をしたが、四壁には、その時から抽象の津高和一ひとりの画が統一して掛かっている。これも当時としては、大胆であった。

いまは、あちこちにだんだんモダンなレストランもできたが、一時は、神戸らしく瀟洒で、しゃれていて、ほのあたたかい清潔なフンイキがこの店には満ちたりていて、大いに気分をよくしたものだ。いまも床板は昔そのまま。コンクリートにかえないところがいい。石やコンクリートの床を歩いてテーブルにつくのと、木の床を歩いてテーブルに腰掛けるのでは、ずいぶん味覚がちがう。味覚は舌三寸だけにあるのではない。あたりのフンイキはもちろん、音響は、大いに影響、石やコンクリートの床を音させて歩いた後では、つぎの味覚はうんと変

るのである。そんなに神経質になつては、なかなかレストランへも入れないが、ともかく、この店はそうした面の配慮までしているということだ。このステーキは、サーロインのロースで一人前六五〇円、テンダロインのヘレで七〇〇円。外人はいくぶんかたく、歯ごたえがあるロースを好む人が多いが、ロース、ヘレいずれをとるかはすきずきである。ヘレは牛肉のなかで脂肪がもつともすくなくやわらかい個所。なにしろ一頭の牛の両脊から二本しかとれないものだけに、上質のヘレを入手するには、なかなか苦心している。

コックさんは、かつて満州でその道にいた。この店、もちろんステーキが看板だが、各ジズンに向いた魚、鳥料理にもこのところなかなか工夫をこらしているの



(右上)最初の塩加減で味をきめる



(左上)上質のステーキの脂が飛び散るうちに早く切る

(下)鉄板の前に並べられた独特の「みそ」スタイル

¥ 1200



外人好みともいえる本格派のコウベステーキのテキ

英会話紳士

文・竹田 洋太郎
え・鴨 居 玲

オリンピックが近づくので、各地では英語塾が満員だという。本屋にいくと「もうチョットで英語は話せる」といった名の本が並んでいる。またビジネスマンのために「アメリカ人と商売する法」などという英語勉強の本も出ている。これらはすべて紳士道に反する現象であり著作である。

紳士は、それなら英語を話す必要がないのか。否である。紳士は「紳士の英語」を話さねばならない。そのためには、この章を読めば十分である。

群少の俗悪な本を読む必要はない。

第一に紳士は英語を話すことができればならないが話す必要はかならずしもないのである。話がこんがらがったが、いいかえれば、紳士は英語に堪能であるかもしれない。英語に堪能であるかのように見せればよいので実際に英語を話すことと、紳士であることとはなんら関係がない。むしろ流暢に、ペラペラと英語をしゃべる男はそれだけでも紳士の資格がない。トランジスタラジオといつわって、石炭ガラを輸出した人物も英語はたくみであつた。

そこで、本当に英語に堪能な人は、できるだけ口数少なく話すのが紳士の英会話である。またその内容は、古今東西の話題をとらえて広く話してはいけない。天気のことだけに限る。イギリスでも真の紳士は決してコールガールにウツツを抜かしているのではなく、クラブでは専ら天気の不平を並べているのである。

次に、英語に堪能であるかのように見せるにはどうすればいいか。ここに数例を挙げてみよう。

「いつてやりましたよ」という言葉が流行したことがある。さる非紳士はアメリカから帰国したとき「ワシントンでケネディ君に会ったとき、わしや日本人を見そこなうな」といつてやりましたよ、ワハハ……」

その時あなたはこの非紳士と一緒に「ワハハ……」と笑うのである。そこでちょっと間をおいて小声で「ときに『見そこなうな』というのは英語でどういったらいいのかな」と独り言のようにして近くの人に聞かせる。その結果、最初しゃべった人物は実は英語を全然知らなくて、あなたは相当英語がうまいという印象を近くの人は持つであらう。

また「最近いろんな方がお仕事で外遊されますが、あなたも近くいらつしやるのでしょう」と人にたずねられることが多い。その際には「私が外国へいってもパテントの問題で法律上の議論をしたり、相手方の弁護士とやり合ったりするほど英語がうまいものですか、現地の連中にまかせてありますよ」と、いともおうように語るのである。そうすれば、やはり相手の人はあなたの英語が相当なものだと思ふだろう。

ここでひるがえって、紳士の英語に最も必要なフレーズを覚えておけば極めて便利である。筆者の経験からすると、中学一年の英会話の時間から今日まで、一番よく

「別冊紳士入門図解」

使ったのは I don't know. である。また、英国で出版されたさまざまな紳士道の書物にもそう書いてある。但し、紳士はこの I don't know. を中学で習ったままの発音でやってはいけない。カタカナで「アイドントノウ」では明治大正の流行語である。カナで書くなら

アーエ・デヤウント・ネヤウ

に近い発音でゆっくりやる。I don't know. はまた「私は知りません」と答えるだけではない。それをいうときに「さあ、そんな下らんことはボクは知らんね」とか「君そんなこと知らないのか」といった気持をこめて話さねばならない。

他に数例を挙げるが、これはカッコ内の意味をこめていうことが肝要である。

「実録 英会話紳士海外編」

かって私が海外にいる時、色々の日本紳士を見る事が出来た。国を出る時秘書かなにかに、ホテルについたら先ずしっかりと名前を控えておけば迷い子になる事はないと教えられて来た紳士は、しっかりと玄関の名札をノートに記して夜の街見物にと出かけた。さて帰途タクシーに乗込み、くだんの手帳を見せたのがまずかった。「EXIT」(出口)と記してあるのみであった

又、フランス語の出来る私の友人は地下鉄に乗った時にお腹の具合の変調に気が付いた。カフェに入るには折悪しく金がない。さればルーブル博物館のW・Cならばと前まで来ると運の悪い時はしょうのないもの、「本日休館」。それならばすぐ近所の「サマリテア百貨店」にとやっとの事でたどりついた(第一図参照)そして可愛いマドモアゼルに、はやる胸ではないお腹を押えて、「ラバボー、シルヴァーブレ」(W・Cをどうぞ)と正確な発音で云った。ニコリ微笑したマドモアゼルに導かれて地下室に下りた。は、あフランスの百貨店は地下にW・Cがあるんだなあと後に続く。(第二図参照)さあここですと云われた彼は本当に気が遠くなった。それは家庭用品の便器売場であった。……と云うような人の事を書くときも私が語学にタンノウであるかのように人も思いそして私まで錯覚を起してしまう。悪い気持ではない。これが洋太郎会話入門の極意の一つではなかるうか。

第1図

このような足どりで、百貨店までたどりついたのである。歩巾の乱れとせまいことに御注意。



元

第2図

最後の勇をふるって、マドモアゼルの後を歩いた足跡である。日本男子の心意気



元

As you know 〓ご存知のように(多分君は知らんだろうが)

I may be wrong... 〓私が間違っているかも知れませんが(間違っているかも知れませんが)

Thank you just the same. 結果がどうあろうとも感謝しています(とんでもないことをしてくれたな)

We must meet again ぜいお目にかけましょう(二度と会いたくないね)

そして、全般的に紳士の英語はできるだけゆっくり、しかも相手に聞きとられないよう語尾を不明瞭にすること。その際パイプや葉巻をくわえたまま話すと効果が増すものである。英会話においても相手をイライラさせ、イジワルすることは正しい紳士の義務である。

As you know 〓ご存知のように(多分君は知らんだろうが)